

第8章 結 核

結核の状況は、医療や公衆衛生の向上に伴って劇的に改善されたが、昭和50年代頃よりその減少スピードに鈍りが見えはじめ、平成9年には遂に全国で罹患率が上昇に転じた。そのため、国は平成11年7月26日に「結核緊急事態宣言」を発令した。

平成19年4月には、「結核予防法」が「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」と言う。）」に統合され、「人権を尊重しつつ、総合的かつ計画的に施策を推進する。」旨の基本理念を念頭においた取り組みが求められている。

この理念のもと、結核患者発生動向調査、接触者健康診断による結核患者の早期発見、登録患者や家族への服薬指導を含む訪問指導、結核感染の拡大防止のための就業制限、入院勧告等を実施した。

なお、当保健所の令和3年の結核新登録患者は57人であり、罹患率は14.6で、全国の9.2と比較して高い状態である。高齢者の罹患率が高い特徴があり、高齢者や外国人を中心としたきめ細かい対策を推進していく必要がある。